

富士前田子山まち再生検討委員会

活動伝達書

富士前田子山地区は、閑静で暮らしやすい住宅街です。しかし、行き止まり路地が多かったり、建物が密集していたり災害が起きた時のことを考えると不安が残ります。

地域住民と市役所が協力し、日常生活と防災の両方の視点を大切にしながら“まちづくり”をしています。

2006 年
富士前田子山まち再生検討委員会

1, 富士前田子山地区概要

1-1 富士前田子山地区はこんな場所です！



富士前田子山地区は、志木市本町2、3丁目の昔の地名です。ここは、まだ農地であった1960年（昭和35年）に土地区画整理事業区域となりましたが、事業が実施されないまま現在に至っています。昭和30～40年代にかけて急速に宅地化が進んだのですが、農地であった頃の曲がりくねった細い道路を基盤とし、道路整備を行わないままにミニ開発が繰り返されたため、行き止まり道路が多く、建物が密集するなど防災上多くの課題を抱える地区となってしまいました。

志木市において、都市計画マスタープランで富士前田子山地区の位置づけが見直され、その事業手法が改めて考え直されることになりました。そして2002年に、行政からの働きかけのもと地元住民組織『富士前田子山まち再生検討委員会』が立ち上がりました。これは、志木市において住民と対話する初めての試みです。

1-2 富士前田子山地区現在のまちなみ



1-3 まちづくりが始まる前はこのようなことを考えていました

区画整理が実施されていないことや、地区の現状の課題について住民がどう考えているのか、この地区を良くするためにどのような方法があるのか手探り状態だった。

市役所：武井

神社がある閑静なまちに満足はしていたが防災上不安があった。土地区画整理を何とかしてほしい、事業の網をかけたのだからこれ以上放っておいてほしくないと思い参加した。解決の糸口を見つけられると思った。

住民：大橋

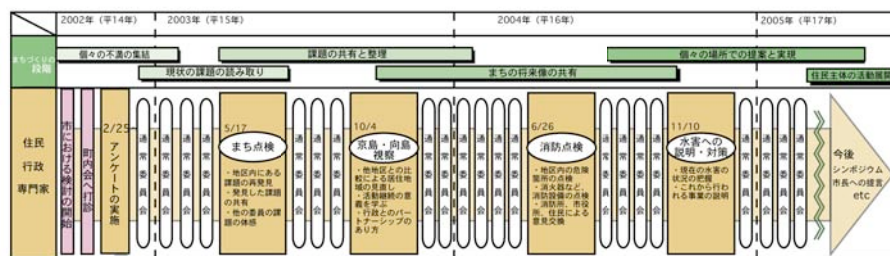
2, 富士前田子山まち再生検討委員会の流れ

2-1 まち再生検討委員会の流れ

志木市は2002年度に、住民が区画整理区域であることを知っているか確認することを目的に、住民にアンケートを行いました。その際にまちづくりへの参加の意志を確認し、意欲を示した住民で富士前田子山まち再生検討委員会を立ち上げました。月に一度の委員会では、委員それぞれの持ち寄った課題や興味を感じることにについての話し合いを重ねながら、地区内に対する認識を少しずつ委員会共通のものとしています。また、会議室での話し合いだけでなく、まち点検、他地区への視察、防災点検等も行っています。



いろは遊学館での会議の様子



まち再生検討委員会 活動の流れ

○第1回のアンケートで明らかになった地区の課題

- ・もっと明るく電灯を増やしてほしい
- ・袋小路が多い地区となり、狭い道路であるため消防車や救急車も入って来れないことに大変不安を覚える。
- ・老若男女が憩えるような公園がない。
- ・空き家が多くなってきて火災が発生したことを思うと非常に恐ろしい。
- ・（新河岸沿い）土手の道路は以前通れたのになぜ通れなくなったのか。
- ・水害のない安心してする「まちづくり」を希望

■委員の構成

富士前田子山まち再生検討委員会は、土地区画整理事業区域内の住民により構成されています。この区域名は旧字名により決定され、その後住居表示の実施により、本庁2、3丁目に変更されるものの、町内会区域と区画整理事業区域が一致しないため、町内会という既存の組織ではなく、新しい組織が立ち上がり、年代、性別といった視点や、居住年数、居住地区という地区に住む上での特性から多様なメンバーから構成されています。

■活動テーマ

防災・住環境・コミュニティ・・・

委員は、水害・道路整備のように防災に関心を持つ人、無接道住宅や建物の密集等住環境に課題を感じる人、ポケットパークの設置などに興味を持ち人のふれあう将来像を描いて参加する人等様々です。活動初期には、個人の主張も多く話し合いが進まない場面もありましたが、活動を重ねるうちに互いの課題を理解し、新たな興味の対象も見つけるなどそれぞれが変化してきました。現在は、一人一人がテーマ性や得意分野を持ち、コアとなりながら話し合いを続けています。

地区の中のいろいろな課題を知り、みんなで共有する事ができた。これから前向きにメンバーや地元住民の人と一緒に課題を解決していきたい。

住民：武野内

3, 富士前田子山まち再生検討委員会の活動

2004年度における一番大きなイベントは、富士前田子山まち消防点検でした。来年度以降もこのような消防点検を継続していきたいと考えています。

防災 第一歩！

地域の現状を把握しよう。

この地区には不安が多い！！

事前のコミュニティ強化が重要！

■消防点検実施

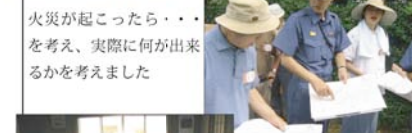
6月26日、富士前田子山まち消防点検を実施しました。天気にも恵まれ、富士前田子山まち再生検討委員会の他に、消防署、市役所の都市整備課と防災交通課、市場自警消防隊、上町防災委員など多くの組織から集まり29名で実施しました。

今回の消防点検では、消防署の人と、もし火災になったらという仮定をし、実際の消火活動の方法を考えながらまちを点検し、その後、住民・消防署・市役所それぞれの立場から意見交換をしました。

終わってみると、やはりこの地区は防災上課題があることを再認識するとともに、災害になる前からいろいろな組織と連携し、ご近所のコミュニケーションの大切さを知ることが出来ました。



消火器・消火栓・防火水槽など、地区の消防設備を点検しました。



火災が起こったら・・・を考え、実際に何が出来るかを考えました



消防署の人と机を囲み自分達に出来ることを話し合いました。

自力で逃げる事が出来ないお年寄り等を確認したり、消防車の誘導をするなど自分に来ることを実行していきたい。民生委員と協力する機会も必要。

住民：原田

自分の住む付近以外は歩く機会がなかったが、歩いてみて、本当に道路が狭く、行き止まりが多いと思った。夜回り等をして、もっと新しい発見をしたい。

住民：天沼

防火水槽等があることを確認できたがそれだけではまだ不安を感じる。消防自動車が入れる道の確保が大事。4市合同の消防体制になったためこの地区の事をもっと知ってもらえるように確認していきたい。

住民：吉田

消防点検で確認できたこと

- 自分、家族ではじめられること
 - ・路上駐車をしない。
 - ・消火器、消火栓の場所を確認する
 - ・ブロック塀から延焼防止効果が期待できる生け垣にする
- ご近所・地域でできること
 - ・家族の健康状態を近所同士で把握する
 - ・隣近所のおつきあいを大切に
 - ・日頃から近所で協力する
- いざ火事になったら（消防署からのアドバイス）
 1. 重なってもいいからとにかく通報。
 2. 携帯電話より、居場所が特定できる一般電話で通報をする。
 3. 近所が火事になったら窓、雨戸は閉じる。

雑誌にも掲載されました！

『近代消防』

2005年3月号

P135 消防ミニ通信

4, 富士前田子山まち再生検討委員会の成果

解決！！

危険な道路を整備しよう！！

委員会メンバーが行政と住民のパイプ役として活躍しました

■斜面林治い道路の強化工事

行き止まりが多く車が通り抜けることの出来る道路がほとんどないこの地区において、斜面林治いの道路は地区北側の住民にとって、骨格道路的位置づけです。しかし、崖沿いにあるこの道路の路肩は崩れ、フェンスも外側にはみ出しとても危険な状態でした。行政としても整備が必要と考えている場所でしたが、行政と住民が話し合う場所をもてず、工事方法が決定出来ませんでした。しかし、委員会が立ち上がったことで、委員が地元住民、行政のつなぎ役となり工事の決定、実施に至りました。



委員会メンバーが地元住民とのパイプ役になってくれた。メンバーが、地区の住民から信頼を得る機会にもなったと思う。

市役所：武井

個人個人でもっていた不満を集約し、課題が改善されて大変良かった。環境が良くなり散歩も増えた。また、近所同士の挨拶も多くなり気持ちがいい。

住民：三上

施策決定

■水害対策

川が近く急傾斜をもつという地形上の特徴から、低地において数年に一度の大雨で水害が発生し問題となっていました。委員にも、水害に直面する人がいたため、行政の担当課から職員が説明にきて水害の状況、対策の方法を説明してもらいました。実際の工事はまだ途中段階ですが、実際に行われる対策や、工事に向けたどの段階であるかを確認しました。

水害に立ち向かえ！！



こういう対策を進めています

きちんと事業の計画の説明を開けたことは良かった。また、委員会に出席することで周辺住民への認知へもつながったと考えている。

住民：重見

委員会が行政の説明責任を果たす場所となっています

解決！！

大きい車は通れません！

■大型車侵入対策

大型車が曲がることの出来ない急な曲角があるものの、そのことを知らない大型車が地区内に入り込み、引き返すことで、渋滞をおこし小学生の通学路が危険にさらされていました。そこで、市役所と話し合い要望を伝えたことで市が動き、大型車注意の立て看板を設置しました。そのおかげで大型車の進入は大きく減少し、歩行者の安全性が高まりました。

※ここという大型車は道路交通法にある4t以上のトラックという意味ではなく大きい車を指しています。

志木市役所と協力したことで課題の解決に繋がりました



看板ひとつで大きな効果！

看板を立てたことにより、格段に安全性が増した。しかし、まだ看板を見落として入ってくる車もあるため、さらに何が出来るか考えたい。

住民：松尾

5, 広報活動

求む！！まちづくりメンバー

現在、委員会のメンバー数は充分とは言えません。そのため、新聞やホームページを用いて地域の人に活動を伝え、メンバーを増やしてもっと多くの人と話し合いをしていきたいと考えています。

■まち再生検討委員会による広報活動

・まちづくり新聞による広報

『富士前田子山まちづくり新聞』の1,2,3号を作成して、富士前田子山まち再生検討委員会の活動を広報しています。内容としては、活動経過、今後の予定、他地区の事例紹介などが挙げられます。そして現在まだまだ少ない委員が増えるように、委員会への参加の呼びかけも行っています。

この新聞は、町内会にご協力頂き許可を得た上で、委員が各家を回って地区内に全戸配付するとともに、志木市の掲示板を利用するなど、積極的に広報活動を行っています。

■ホームページの作成

富士前田子山まち再生検討委員会のホームページが公開されています。

このホームページでは、毎回の委員会の議事録や、これからの日程などを伝えています。またその他にも、地区の今昔写真集、過去の新聞の内容、まち再生検討委員会へのQ & A等新聞では伝えきれない内容を盛り込んでいます。

これからも発行し続けていきたいと思っている。ただ、これまで新聞を見た人からの反応がなかったため、市や委員会にコメントをもらえるような新聞にしていきたい。

市役所：滝田

ホームページ：http://www.shiki-toshiseibi.com/fujimae/kentokaigi-top.htm (管理：志木市都市整備課)
http://satoh.arch.waseda.ac.jp/shiki/ (管理：早稲田大学佐藤研究室)



まちづくり新聞第3号



ホームページのトップ

現在は委員会への参加者が少ないため、富士前田子山地区に住んでいる人に広く活動を伝え、メンバーを増やしていきたい。情報誌として発行し続ける等して、どのように浸透させていくかがキーワードになっていく。

住民：渡辺

6. 今後の活動 解決方法模索中！！

まだまだたくさん話し合うべきことがあります！！

■住環境を良くしていこう

3階建てが増えていく中で、風通しや日当たりが良くなる様な建て方を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

建て方について、緑の豊かな地区になるように、ルールをつくることを検討しています。

■密集の改善、土地区画整理事業をどうするのか

密集の解消、行き止まり道路の解消

この委員会における、一番の活動目的である密集の解消、行き止まり道路の解消に向けた検討も始まっています。これまでに小さな取り組みを重ね、市役所の各課と連携をとってきたことで、住民と市役所の新たな関係が生まれはじめています。今まで無理だとあきらめていた人がやる気をおこしたり、自分の家は安全な場所にあるから問題意識を持っていなかった人が、積極的に方法を模索したりというように。

実際の方法としては、江戸川区の篠崎地区を参考に段階的区画整理を用いることが検討されています。

■私道を公道にしていこう

これから具体的にまちづくりを考えていく中で私道は大きなキーワードになっていきます。道路基盤を強くするために何が出来るか話し合っています。

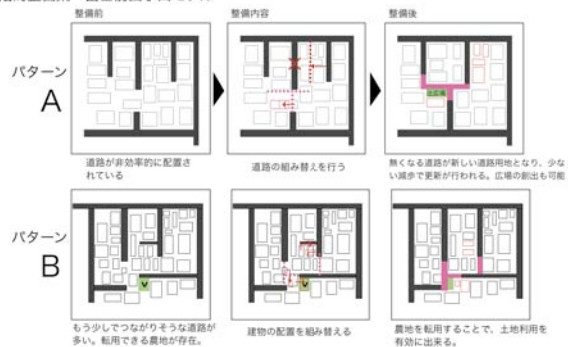


■検討段階の整備イメージ

- ・急傾斜が多い
- ・低未利用地（空き地等）が少ない
- ・基盤道路が整備されていない

上のような、この地区独特の特徴があります。地域に根ざしたプログラムを組んで、日常、災害の両方の視点から密集対策を考えていきたいと考えています。

段階的整備案 富士前田子山モデル



■最後に

今まで、二年以上活動を続けてきて小さな課題の解決を積み重ねてきました。今回改めて活動や委員会メンバーの意見を整理してみて、目に見えない事も含めて想像以上の成果があることを確信しています。今後ハード整備を進めるには長期的な視野が必要になると思いますが、まだ内在している課題を引き続き解決しながら大きなうねりとなってまちの住環境が向上するのではないかと考えています。

行政の働きかけで会が立ち上がり、住民が集まることで課題が明確になり、外からでは見つかることの出来なかった多くの動きが起きました。そして今、委員会がまた地区住民に働きかけ・・・というようにいろいろな発信源から、多くのキーワードを発信していきます。

富士前田子山まち再生検討委員会

活動伝達書

2006年2月発行

富士前田子山まち再生検討委員会

協力：志木市役所 都市整備課
早稲田大学都市・地域研究所